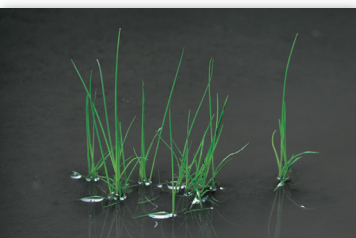




ノビエ



ホタルイ



コナギ



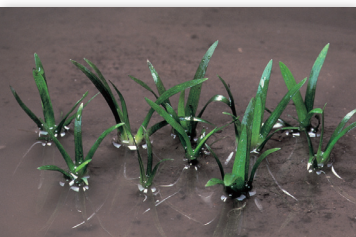
アゼナ



ミシハコベ



マツバイ



ウリカワ



ヒルムシロ



ミスカヤシ



1キロ粒剤51
農林水産省登録
第22452号

フロアブル
農林水産省登録
第22454号

ジャンボ
農林水産省登録
第22440号

明日の
農業を
考える

1キロ粒剤51

フロアブル

ジャンボ®

日農

イツボン®
D® 登録商標

水稻用初・中期一発処理除草剤

この一本が除草を変える！
新規成分ピラクロニル配合により難防除雑草に優れた除草効果を示します。



田植同時
処理可能！

直播、無人ヘリ、
WCS用稲にも
使える

鉄コーティング
湛水直播にも
使える！
(直播水稻表面播種)



* 剤型により使用方法が異なります。
詳しくは各剤型の登録内容をご確認
ください。

■ 使用時期

移植時(ジャンボは移植直後)

ノビエ2葉期

ノビエ2.5葉期 (ただし移植後30日まで)



地域や作期によってノビエの生育速度に差がありますので、使用時期を失ないように散布してください。

■ 日農イッポン®D 1キロ粒剤51

【有効成分】ダイムロン・・・4.0%
ピラクロニル・・・2.0%
プロモブチド・・・6.0%
ペンシルフロノメチル・0.51%

【毒 性】普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

■ 日農イッポン®D フロアブル

【有効成分】ダイムロン・・・8.0%
ピラクロニル・・・4.0%
プロモブチド・・・12.0%
ペンシルフロノメチル・1.0%

【毒 性】普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

■ 日農イッポン®D ジャンボ

【有効成分】ダイムロン・・・8.0%
ピラクロニル・・・4.0%
プロモブチド・・・12.0%
ペンシルフロノメチル・1.0%

【毒 性】普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

特 長

ノビエをはじめ、幅広い雑草に優れた効果を示す新規有効成分ピラクロニルとSU抵抗性ホタルイに効果の高いプロモブチドを配合しました。多年生雑草も含め、広い殺草スペクトルを有する高性能タイプの水稲用初・中期一発処理除草剤です。

適用雑草および使用方法

〈2018年3月現在の登録内容〉

作物名		適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペンシルフロノメチルを含む農薬の総使用回数
1 キログラム 粒剤 51	移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、 ウリカワ、クログワイ、 コウキヤガラ、オモダカ、 ヒルムシロ、セリ、 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ 2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	1kg ／10a	1回	湛水散布又は 無人ヘリコプター による散布	3回以内 （育苗箱散布は 1回以内、本田 では2回以内）	2回以内	2回以内	2回以内
	直播水稲	水田一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ、ウリカワ、 ヒルムシロ	イネ出芽前～ノビエ 2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			湛水散布又は 無人ヘリコプター による散布				

	作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ダイムロンを含む農業の総使用回数	ピラクロニルを含む農業の総使用回数	プロモブチドを含む農業の総使用回数	ペンシルフロメチルを含む農業の総使用回数
フロアブル	移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、コウキヤガラ（関東・東山・東海、九州）、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ2.5葉期　ただし、移植後30日まで	砂壌土 と 埴土	500ml ／10a	1回	原液湛水散布、水口施用又は無人ヘリコプターによる滴下	全域（北海道、東北を除く）の普通期及び早期栽培地帯	3回以内 （育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内）	2回以内	2回以内	2回以内
		移植時	田植同時散布機で施用									
	直播水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ	イネ出芽揃～ノビエ2.5葉期　ただし、収穫90日前まで	壤土 と 埴土			原液湛水散布	全域（北海道、東北を除く）	2回以内			

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ダイムロンを含む農業の総使用回数	ピラクロニルを含む農業の総使用回数	プロモブチドを含む農業の総使用回数	ペンシルフロノメチルを含む農業の総使用回数
ジャンボ	移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、コウキヤガラ(関東・東山・東海、九州)、オモダカ、ヒルムシロ、セリ	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	小包装(パック)10個(500g)／10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	全域(北海道、東北を除く)の普通期及び早期栽培地帯	3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	2回以内	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。
なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意する(下記表参照)。

	2葉期まで	発生始期	発生期末まで	再生始期まで	発生前
フロアブル					アオミドロ・藻類による表層はく離
1キロ粒剤51	ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	クログワイ コウキヤガラ オモダカ	ヒルムシロ	セリ	ヘラオモダカ
ジャンボ					－

- 移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用する。〈FL〉
- 苗の植付が均一となるように代かきを怠らない行う。未熟有機物を施用した場合は特に怠らない行う。
- クログワイ、コウキヤガラ及びオモダカに使用する場合には、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。
- 移植時に散布する場合には、所定量を均一に散布できる田植同時散布機を使用する。〈1キロ粒剤・FL〉
- 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させる。処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め田面水があふれないように注意する。〈FL〉
- 本剤を無人ヘリコプターで散布・滴下する場合は次の注意を守る。〈1キロ粒剤・FL〉
- 散布、滴下は使用機種の使用基準に従って実施する。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。〈1キロ粒剤〉
 - 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。〈1キロ粒剤〉
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。〈1キロ粒剤〉
 - 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しない。〈FL〉
 - 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行う。〈FL〉
 - 隣接する圃場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人ヘリコプターによる本剤の滴下は行わない。〈FL〉
 - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意する。
 - 薬剤滴下を使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。〈FL〉
 - 本剤の滴下を使用した無人ヘリコプターの散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しない。〈FL〉
- 散布に当たっては、湛水状態のまま散布する。〈1キロ粒剤は水の出入りを止めて田面に均一に散布、ジャンボは水深5～6cmで投げ込み散布する。〉
- 散布後少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態(水深3～5cm)を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意する。また、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

- 薬や浮草が多発している水田では拡散が不十分となり効果の劣る可能性があるため使用を避ける。〈ジャンボ〉
- 以下のような条件では使用を避ける(薬害)。
- 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - 軟弱な苗を移植した水田
 - 極端な浅水の水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
- 直播水稲に使用する場合は以下に注意する。〈1キロ粒剤・FL〉
- 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用を避ける。
 - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布する。
- 強風時の散布は避ける。〈FL・ジャンボ〉
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける(効果)。
- 散布後に低温傾向が続くと予想される時には、雑草に対する効果が低下することがあるので注意する。〈1キロ粒剤〉
- 散布後数日間暑しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- いくさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、隣接田で使用する場合は、十分注意する。
- いくさ栽培予定水田では使用しない。
- 畜に対して影響があるので、周辺の養蚕にはかからないようにする。〈1キロ粒剤・FL〉
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しない。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしない。〈FL・ジャンボ〉
- 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理する。
- また、使用した機器等は水稲用薬剤以外に使用しない。〈FL〉
- 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。
- 付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。〈1キロ粒剤〉
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
- 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の処置を受ける。〈1キロ粒剤・ジャンボ(破袋した場合)〉
- 散布の際は手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。〈FL〉
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 無人ヘリコプターによる散布・滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。〈1キロ粒剤・FL〉
- 散布後は水管理に注意する。
- 散布器具及び器の洗浄水は、河川等に流さない。〈1キロ粒剤・FL〉

使用前にはラベルをよく読む。ラベルの記載以外には使用しない。小児の手の届く所には置かない。使用後の空袋・空容器等は圃場などに放置せず、適切に処理する。



日本農薬株式会社

東京都中央区京橋1丁目19番8号

カスタマーサービス TEL. 03-6361-1414

ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>

2018年3月作成版(TS)AR11803S